

第73回日本詩人クラブ総会

日時 令和4（2022）年6月11日(土)

場所 赤羽会館小ホール

令和4年（2022年）6月11日(土)赤羽会館小ホールにおいて、第73回（一社）日本詩人クラブの総会が開催された。当日現在の会員数は776名、出席者は45名、委任状提出者420名で、定款26条及び27条に基づき総会の成立が確認された。出席者は理事会関係者15名、一般会員28名、他に会員外の方が2名参加された。

総会の前に今年度の功労顕彰の団体（茨城県下妻市、わらべうたあそびランド詩集『くさぶえ』編集委員会、会長武井隆志氏）に賞状が贈呈された。

総会では、司会進行の星善博理事による開会の言葉、北岡淳子会長の挨拶に続き、2021年度に他界された、秋田高敏（永年会員）、荒井愛子、有吉篤夫、伊淵大三郎、岩重美江、岩本健、門田照子（功労会員）、岸田裕史、ささきひろし、長岡昭四郎（永年会員）、根本昌幸、室井大和、山本衛、吉田ゆき子の各氏に黙祷を捧げた。

議事に先立ち、議長団選出が行われ、議長団には曾我貢誠氏、秋田芳子氏が選出され、式次第の通りに議事がすすめられた。

まず理事長から、令和3年（2021年）の概況や法人としての事業報告がなされた。概況は規約3条の精神に基づき取組んだ主要行事、及び理事会開催状況についての説明などがあつた。続いて各担当理事からの令和3年度の担当事業について詳細な報告がなされた。報告は次の通りである。例会・創立70周年記念事業、三賞関係、「詩界」、広報「詩界通信」、総務関係、ホームページ、アンソロジー『日本現代詩選』、関西大会、「新しい詩の声」、入会・退会関係、などであつた。続いて、杉野紳江理事から2021年度の決算報告、監事より監査報告があり、質疑応答の後、いずれも承認された。

具体的な事業内容として、通常事業としての例会は12月例会以外全て中止。同様に、開催を延期していた創立70周年記念大会も中止とした。機関誌『詩界』及び広報「詩界通信」の発行、ホームページの運営、三賞の選考及び授賞式の実施、「新しい詩の声」賞の選考と授賞式の実施、詩人団体への後援、入会・退会関係の業務、また、2022年5月に実施の関西大会の開催準備、2022年12月発刊予定の『日本現代詩選2022』第40集の発刊準備なども行ったことが報告された。また、法人としては6月に新宿区北新宿に新たに事務所を設けたことなども報告された。令和3年度は、会員11名、会友5名、計16名の入会を承認した。

続いて2022年度の事業計画案が理事長より提案され承認された。以下、項目を記しておく。原則として毎月1回の理事会の開催、オンライン会議も積極的に導入する。他には、三賞の顕彰に向けての準備、『詩界』、「詩界通信」『現代詩選』の発行、「新しい詩の声」の詩の募集、例会の実施、例会においては映像化し地域の会員に届けることを原則とする。また、今年度の地域大会は新潟で行うことが説明された。

今後は将来構想委員会でも例会について様々な観点から検討することが提案された。さらに、将来構想委員会提案による別冊『詩界』（仮称）の発刊準備を進めていくこと。「例

会]、「国際交流」等の充実を図るための検討委員会（仮称）を設置し、会の活動の活性化を図っていくことなどが承認された。

続いて2022年度（令和4年度）の予算案が説明され、今年度の予算案が承認された。

最後に名誉会員の推薦があり、中村不二夫氏と金子秀夫氏が承認された。さらに功労顕彰会員の顕彰が行われ、一般社団法人日本詩人クラブ「功労顕彰に関する内規」により、次の会員10名を顕彰した。

剣持昭義、佐久間隆史、名古きよえ、西田義篤、保高一夫、前原正治、宮田小夜子、金子以左生、五味里美、鈴木千壽の各氏。

最後に秋元炯理事より閉会の言葉があり、今年度の総会は終了した。

*「詩界通信」100号から抜粋。詳細は「詩界通信」100号に掲載しました。